

ニュルンベルクの公開射撃大会 (1458)

楠戸 一彦 (広島大学)

Quellen zum Freischießen in der Stadt Nürnberg (1458)

Kazuhiko KUSUDO (Hiroshima Universität)

1. はじめに

本稿の課題は、ニュルンベルクで1458年に開催された弩による公開射撃大会に関する史料の内容を紹介することである。

ドイツ中世後期の都市では、都市の参事会が主催し、開催都市だけでなく他の都市の射手も参加する「公開射撃大会」が開催された。この射撃大会では、弩と銃による射撃競技だけでなく馬上槍試合や走跳投などの競技も実施され、貴族だけでなく市民や農民も参加した¹⁾。このような射撃大会に関する文書史料としては、1) 他都市の射手を招待する書状である「射手状」、2) 競技の経過を記録した公的文書(参加者目録、競技記録、賞品目録など)、3) 会計帳簿における支出記録、4) 年代記における記録、5) 競技会に参加した道化師による記録、などが挙げられる²⁾。これらの史料のうち15世紀前半の公開射撃大会に関する史料は、若干の射手状と年代記が知られているだけである³⁾。そうした中で、本稿で取り上げる『1458年にニュルンベルクで開催された射撃大会の記録』は、射手状の写し、参加者目録、入賞者目録、競技の経過、参事会による射撃大会への支出などに言及しており、公開射撃大会の全体的な経過を伝える公的記録としては最初の史料である⁴⁾。しかしながら、この史料は従来はその存在が指摘されるだけで⁵⁾、史料の内容全体が明らかにさ

れることはなかった。

ニュルンベルクの州立文書館が所蔵する『1458年にニュルンベルクで開催された射撃大会の記録』⁶⁾(以下では「記録」と呼ぶ)は、横22cm×縦31cmの大きさの紙に書かれており、本文の筆跡とは異なった筆跡で14丁の丁付けがなされている。同一の筆跡で書かれた本文の作者は不明である。しかし、表題や後述の内容から推測すると、この文書は市参事会の書記がオリジナルの記録を競技会後に書き写したものであるように思われる。「58年聖ファイトの日の次の月曜日に当地で開催された射撃大会の整理」(1^r)というテキストで始まる本文は、次のような内容から構成されている。

- 1) 「射撃大会を告示した手紙の写し」(1^r-3^r)
- 2) 「射撃大会を実施するために必要なもの」(競技役員と競技場)(2^r-4^v)
- 3) 「射撃大会のために到来した射手」の名簿(5^r-9^r)
- 4) 射撃大会の経過(9^v-10^v)
- 5) 「最高の射手たち」(競技結果)(10^v-11^r)
- 6) 「射撃大会に対するニュルンベルクの支出」(11^v-14^r)

以下では、これらの内容を一部は邦訳によって、一部は表によって紹介することにする。

2. 公開射撃大会の告示

ニュルンベルク市の参事会は、1458年6月に開催する弩による射撃大会を、1457年12月12日付の文書で告示した。招待状の形式をとっているこの文書(射手状)は全部で380通作成され、「帝国のすべての支配者とドイツ国の有名な都市に当てて出された」⁷⁾。以下で訳出するのは、ケルン市の「市長と参事会および一般の射撃仲間」に当てて出された書状の写しである⁸⁾。挨拶文に続くテキストは次のような内容である。

[]内は訳者の挿入である。

「射手状」

ニュルンベルク参事会の尊敬すべき賢明な我々が愛する紳士たちは、以下に述べるような賞品を提供し、聖ファイトの日の前の月曜日[6月12日]に賞品をかけた射撃大会を開催する。
[参加者は] 前日の日曜日の夜には当地に到着してもらいたい。射撃競技は翌日の月曜日に始まる。[賞品は] 50グルデン相当の金メッキされた銀製のコップ、45グルデン相当の金メッキされた銀製の皿、40グルデン相当の金メッキされた銀製の杯、35グルデン相当の覆い布をかけられた馬、30グルデン相当の覆い布をかけられた馬、25グルデン相当の覆い布をかけられた馬、20グルデン相当の覆い布をかけられた馬、18グルデン相当の銀製の飾り帯、16グルデン相当の銀製の首飾り、15グルデン相当の銀製の杯、14グルデン相当の銀製の杯、13グルデン相当の金メッキされた皿、12グルデン相当の銀の金具がついたナイフ、11グルデン相当の覆い布のかけられた牛、10グルデン相当の覆い布のかけられた牛、9グルデン相当の覆い布のかけられた牛、8グルデン相当の銀製の杯、7グルデン相当の銀製の杯、6グルデン相当の銀製の皿、5グルデン相当の銀製の皿、4グルデン相当の弩、3グルデン相当の弩、2グルデン相当のウインチ、1グルデン相当の金の指輪。[これらの賞品のために]我々ニュルンベルクの紳士たち[参事会]は、151ライニッシュ・グルデンを予め提供する。残り[の費用]は、射撃大会に参加

する一般の射撃仲間が均等に[負担する]。このような射撃大会は上述の月曜日に始まるが、射撃仲間の相談がまとまれば、同日に射撃が開始される。射撃[数]は50射になる。翌日からは、時計が3刻[午前7時]を打つと開始され、11刻[午後4時]を打つと中断される。各々の弩[射手]は1ライニッシュ・グルデンを壺の中に納めなければならない。このような賞品と参加費による[競技]ための座席[射撃位置と標的までの距離]は140歩である。この歩数の測定は、最も遠くから参加した射手とニュルンベルクの射手の二人と一緒に[歩いて]行う。射撃はこの書状の外側に描かれている直径の円に向かって⁹⁾、しかも誰も射撃をしていない無傷の標的に向かって行われる。誰かが標的に命中させると、次の標的が用意される。こうして、各々の射手が規定の射数を終えるまで射撃が続けられる。各々[の参加者]は、我々の書記の手によって所有者の名前が記載された矢を発射しなければならない。また、背筋を伸ばして、腕を浮かして、いかなる危険な有利さもないようにして射撃をしなければならない。これに反する者の射撃道具は没収され、他の射撃仲間のものになる。弩による射撃で最も多くの命中をなした者には最高の賞品が、次の者には次の賞品が与えられ、[このようにして]すべての賞品がなくなるまで分配される。我々ニュルンベルクの紳士たちは、参事会員を宣誓した標的係に任命する。各々[の役員]には、ふさわしい権利が与えられる。これによって、あらゆる事柄がますます賞賛すべきように、また公正に行われる。何か問題が生じると、一般の射撃仲間の多数決によって解決がなされる。我々は賢明なるあなた方に、我々ニュルンベルクの紳士たちによるこのような射撃大会と娯楽、及び我々の娯楽と賞品のために到来することを、切に要望する。あなた方の射撃仲間は、射撃大会の期間中我々の所で安全に滞在することができるように、我々による安全の保証を受けるはずである。しかしながら、我々に敵対する者、追放刑を宣告された者、ニュルンベルク市が拒絶する

者は、この安全を保証されない。この書状の証拠として、ニュルンベルクの市民にして最高の射手マイスターである尊敬すべきロイポルト・シュールシュタープスの印章を押印する。1457年の聖ルキアの日の前月曜日 [12月12日]。

3. 競技役員と競技場

上述の射手状に見られるように、射撃大会自体は1458年6月12日から開催される予定であったが、大会開催の告示はそれよりも半年以上も前の1457年の12月12日に行われた。告示から開催までの間に競技の準備がなされたはずであるが、この準備に関しては『記録』は僅かしか言及していない。[] 内の語句は訳者の挿入である。

「大会を実施するために必要なもの」

以下のことは射撃を行うために必要なことである。射撃大会のために、笛吹き・呼び出し係・矢運び係・標的係、そして他の人々が招集された。彼ら全員が白と赤の衣服を着用した。[賞品である] 馬の背にかけられる地面まで届く白と赤の覆いが4つ作られた。[馬を引く] 4人の少年のために、同じ色の上着とズボンそして帽子が作られた。背にかけられる地面まで届く白と赤の覆いをかけられた [賞品の] 牛3頭が購入された。これらの牛のために3組の角笛が用意され、その内の2組は金メッキされた。各々の賞品を描いた特別な旗が25本作られた。[馬と牛の背をおおう] 覆い [を運ぶ] ための14の楯が用意された。命中した矢を差し込む柱の上に懸ける楯が1つ用意された。馬の額を飾る羽を納めるための楯が4つ用意された。[射撃時間を知らせる] 時計を置く棚が作られた。雨の時に矢が運び込まれる小さな天幕の上には旗が、下には金の星が描かれた。大きな天幕が作られた。市庁舎の上に旗を立てるために、鉄製の若干の土台が作られた。[射撃大会の間] 毎日、射手たちにワインとパンとチーズを贈るように忠告された。若干の市民には、白ワインを贈ったり、料理したり、他の商売をすることが許された。多くの天幕が張られ、[競技場は] 非常に優雅

に整えられた。参事会の人々のために標的場 [競技場] の側に小屋が設けられ、この小屋には食料品とすべての必需品が準備された。標的場の両側には、[標的から射撃位置に立つ] 射手の所まで柵が作られた。この柵によって、誰も射撃の下を走る [競技場の中に入る] ことができない。参事会の人々だけが命中した矢を確認し、矢を抜くように命じた。命中した矢は、標的 [の中心からの距離] によって測定される。

4. 参加者名簿

1458年6月12日に開始された競技には、貴族だけでなく59の都市から300人余の射手が参加した¹⁰⁾。貴族に関しては身分と名前が、都市からの参加者については都市ごとに参加者の名前が記載されている。従って、『記録』からは参加者全員の出身地と氏名を知ることができる。しかし、本稿では紙面の関係から、貴族に関しては氏名を、都市からの参加者に関しては都市名と参加者数を一覧表 (表I) にして提示することにする。

5. 競技の経過

1458年6月12日に始まった弩による射撃大会は、市庁舎における開会式によって始まった。しかし、この射撃大会が何時終わったのかということに関して、残念ながら『記録』は何も言及していない。[] 内は訳者の挿入である。

競技の経過

射手たちが到来した後、聖ファイトの日の前月曜日 [6月12日] には、市庁舎で彼らに菓子が供された。この席には謙虚な紳士たち、つまりハンス・コラー、ロイポルト・シュールスタープ、ループレヒト・ハラー、そしてウイヘルム・トッフェルホルツが参事会の名において列席した。彼らは立派な歓迎の挨拶を行い、この射撃大会のために書かれた告示 [射手状] を読み上げさせた。その後、射手たちの全員の名前が記載された [参加登録が行われた]。各々の都市あるいは地域ごとの代表者たちは、射撃大会が正当に行われるよう相談するように要望

された。この時には、市庁舎では赤白のワイン、ビール、菓子、その他の立派なものによる飲食が全く素晴らしく行われた。その後、彼らは美しく隊列を整え、賞品と旗そしてあらゆる装飾を運びながら、笛吹きと太鼓手を伴って、市庁舎から都市を通り抜けてハーレルヴィーゼ¹¹⁾まで行進した。ここで、射撃競技では〔射手たちが〕3つの隊〔に分かれて、各々の隊が順番に〕回転して〔射撃を〕した¹²⁾。〔射撃場の〕場所〔標的と標的までの距離〕に関しては、射撃の書状〔射手状〕の内容に従って良い秩序で行われた。〔競技〕場所の秩序が決定されると、標的係は宣誓を行った。つまり、標的係は聖なる誓約にかけて、すべての能力に従って、標的に向かって発射された射撃がどのように射撃されたかということ〔誤りなく〕示すことを宣誓した。何人もこれ〔標的係の判定〕には異議を申し立ててはならなかった。毎日、午前中に射撃が開始され、その後〔射手状に示された〕50射がすべて終わるまで〔競技が〕続いた。射撃競技の期間中、毎日、夕方前に射手たちにワインとパンとチーズが贈られた。この仕事をするのは、そのために任命された兵士たちであった。各々の射手は〔参加費として〕1グルデンを、壺の中に納めなければならなかった。この〔壺に納められた参加費の〕中から賞品の〔代金〕が支払われたが、その内の151グルデンはニュルンベルクの参事会が予め提供した。それにもかかわらず〔賞品の支払いを行っても〕お金が残っていたので、各々の射撃につき8デナリが返金された。すべての射撃は996であり、各々の射撃に対する返還金が8デナリであるので、それ〔返還に必要な支払〕は壺の中に残っていた50グルデンによって行われた¹³⁾。

6. 競技の結果

弩による射撃競技の結果、表Ⅱが示すように、優勝したのはオノルツバッハから参加した11射命中のコンツ・ズップラインであり、2位はアウグスブルクから参加した10射命中のガステルハンクである。また、9射命中は7人、8射命

中が9人、そして7射命中が16人であった。射撃競技には24の賞品が用意されていたが故に、「7射命中でも何も獲得しなかった射手が9人いた」(14^r)。しかしながら、命中数が同数の場合の順位決定については、『記録』は何も言及していない。1509年のアウグスブルクの射撃大会の事例から推測すると、順位を決定するための「決定戦」が実施されたように思われる¹⁴⁾。さらに、「2グルデン相当の金の指輪」が与えられる「最も遠くの都市から到来した」射手が誰であったのか、『記録』は何も触れていない。

7. 競技の経費

ニュルンベルク市の参事会は、公開射撃大会を開催するためにさまざまな支出を行った。表Ⅲが示しているように、出費の内容は多岐に及んでいる。『記録』によれば、参事会がこの射撃大会のために支出した金額は、「176グルデン・452プント・2シリング・10ヘラー」(14^r)であった¹⁵⁾。

8. おわりに

1458年6月12日からニュルンベルクで開催された弩による公開射撃大会には、59の都市からの射手約320人が参加した。彼らは「140歩」離れた標的に向かって、50回の射撃を行い、弩による射撃の技量を競い合った。その結果、優勝したのはオノルツバッハから参加したコンツ・ズップラインであり、2位がアウグスブルクからのガステルハンク、3位がエティンゲンからのハンス・クラッペンマッハーであった。また、この射撃大会のために市参事会は、商品の提供を始めとして、総額で600グルデン余の支出を行った。

注

1. ドイツ中世後期の「公開射撃大会」に関しては、次の抽稿を参照されたい。ドイツ中世後期の都市における「公開射撃大会」の成立と展開、中村敏雄(編)スポーツ文化論シリー

表I. 射撃大会への参加者

ヘンネベルク伯フリードリッヒ		ヘンネベルク伯	
ヘンネベルク伯オット		ヘンネベルク伯	
ジークムント・フォン・エグロフシュタイン		騎士、シュルトハイス	
ハンス・フォン・ビブラ		ヘンネベルク伯の家臣	
カルパール・デシィンガー		ルードヴィッヒ公の家臣	
クリスチアン・ブーゲルヴァイド		ルードヴィッヒ公の家臣	
アジムス・マルチン		ルードヴィッヒ公の家臣	
クリストフ・グラウベルク		シャウムベルク伯の家臣	
ヨルク・フォン・フライベルク		アピンスベルクの家臣	
レーゲンスブルク	19	アウグスブルク	21
ニュルンベルク	117	ウルム	8
チューリッヒ	1	マインツ	1
フランクフルト	1	ベルン	1
バンベルク	10	ネルドリンゲン	8
ゾロツルン	2	ローテンブルク	1
ミュンヘン	4	アイヒシュテット	4
ラーフェンスブルク	2	ランツフート	9
メロン	1	リンダウ	2
アンベルク	11	ストラウビング	5
エッガー	1	メミンゲン	2
ノイマルクト	5	ビベラッハ	3
ギューリッヒ	1	シュバービッシェ・グミュンデ	2
ヴィンデスハイム	3	デッケンドルフ	3
ヴァンゲン	1	エティンゲン	3
ボッピンゲン	1	キッツインゲン	1
オノルツバッハ	4	ケールハイム	7
フォルクハイム	5	コブルク	4
ミュンスタータール	1	イフォッフ	2
ノイシュタット	2	アーベンスベルク	2
ノイブルク	2	クロイツナッハ	2
ビンゲン	1	ノインブルク	1
シュロイジング	1	ミュンルシュタット	2
フライエンシュタット	1	ガイスリンゲン	1
ハイデック	3	エーインゲン	1
ヴァルゼ	1	ミルテンベルク	2
ベルンハイム	1	グレーフェンベルク	1
アイヘンブルーネン	1	ボイティング	3
キルヘン	1	シュヴァンツ	2
リュドルツドルフ	2		

表Ⅱ. 競技の結果

命中数	名 前	出 身
11	コンツ・ズップライン	オノルツバッハ
10	ガステルハンク	アウグスブルク
9	ウルリッヒ・オールマイスター ルードヴィッヒ・ショッパー ハンス・クラッペンマッハー オズワルト・ツオルナー ハインリッヒ・シュニッツアー コンツ・シンガー コンラート・バーダー	アウグスブルク ビブラッハ エティンゲン バンベルク ベルン アンベルク アイステット
8	ヘルマン・ドイヒラー ハンス・シュヴァープ キリアン・ポイトラー エアハルト・シュニッツアー ミッヘル・アンプルンゲン リーンハルト・ボルツエンマッハー ジークト・クリーヒ リーンハルト・ベーハイム クリストフ・キルヒドルファー	ニュルンベルク アウグスブルク アンベルク ガイスリンゲン ニュルンベルク レーゲンスブルク ウルム ランツフト ミュンヘン
7	カスパール・デシュニンゲン ハインリッヒ・シュニッツアー ヨルク・ゼーリック ウルリッヒ・エーベルヴァイン ハンス・ミュールナー ウィルヘルム・ジーバー ハインリッヒ・ベックリンガー アンドレアス・ミュールナー ベルトルト・ヌッツエル ヨルク・フォン・フライベルク ヘンスライン・クロイツアー エーベルハルト・フッター ハルトマン・ランゲン ヨルク・シュニッツアー ハンス・シュトルツ	ランツフト ¹⁶⁾ レーゲンスブルク ¹⁷⁾ アウグスブルク ランツフト ネルドリンゲン ネルドリンゲン ギューリッヒ シュトラウビング ニュルンベルク アピンスペルクの家臣 シュヴァート コブルク ウルム シュバービッシュ・グミュンデ ミッテンベルク

表Ⅲ. 射撃大会への支出

P.	S.	H.	内 容
3	-	-	2人の標的係に
2	-	-	4人の矢運び係に
2	-	-	マイスターのハンス・アウビンゲンに
12	-	-	4人の笛吹きに
-	5	-	ヘーゲンライン（の仕事）に
10	-	-	旗を運んだ25人の各々に48デナリ
7	16	-	13夜に渡って夜警をした6人の夜警手の各々に毎夜12デナリ
2	10	-	オーレン・フライシャックの牛に
1	-	-	牛を運んだ2人の若者の各々に60デナリ
3	-	-	アウグスティン・ヌスメッサーとヨルゲン・ヌスメッサーに
1	10	-	贈り物の手助けをした3人の従者の各々に60デナリ
1	10	-	2人の都市役人に
1	10	-	ウルリッヒ・クラーゲンの仕事に
2	-	-	太鼓を運ぶ少年に
1	-	-	外部の場所を準備した人に
1	-	-	ワインを保管した庭師に
1	-	-	6人の刑吏に
1	-	-	馬を準備した従者に
-	10	-	ヘルマン・シュライバー（の仕事）に
-	10	-	籠を運んだ従者に
4	2	8	果物などに
1	-	-	真鍮細工師に
4	3	10	射撃大会の間ハンス・ロッハイムの所で生じた若干の食費、馬の額を飾る駝鳥の羽がついた小さな楯、旗の鉄などに
1	-	-	標的のための釘と紙に
17	13	6	25の旗、鍵穴のある戸棚の上に置かれる14の楯、矢を選び入れる小さな天幕、この天幕の上の旗、これらに絵を描き、また2組の牛の角を金色に、1組の牛の角を銀色に塗ったブラウン・マーラーに
-	17	6	旗に銃射手を描くブラウン・マーラーに
18	15	-	10の上着と10のズボンそして10の帽子を作った仕立屋に、太鼓手の上着と帽子とズボンに、4つの馬の覆いに、3つの牛の覆いに馬に乗る4人の少年の各々にズボンと帽子に、射撃大会のために使用するその他のリネン布に、床屋の賃金に
2	11	-	家具師のハンス・フォン・シュテッテンに、旗を舟で運ぶことに旗を立てる市長舎の上の設備に、そして矢を運ぶ楯に
2	-	-	牛で干し草とワラを運ぶウライン・オーレンに
2	10	4	旗の布に
1	16	-	賞品である馬の囲いに
30	-	-	チーズに
30	18	8	5000個の巻きパンを焼いたメンリン・ベッケンに、パン2個につき3ヘラー

189	2	-	60アイメルと42マースのワインを用意したゲーリンググロースに 1 マースにつき6 デナリ
15	7	-	50アイメルと2 マースのワインを用意したペーター・ヴィックラ ーに
-	13	4	市庁舎で射手を歓迎するための10マースの赤ワインに
1	10	-	市庁舎での歓迎会のための菓子に
2	3	4	65マースのビールを用意したランツェンドルファーに、1 マース につき6 デナリ
9	10	-	ヴィルヘルム・ロツフェルホルツが毎日射撃小屋に届けた食物に
2	-	-	射撃大会で使用した300のガラスコップに
10	17	-	射撃大会の賞品である2つの弩に
2	1	8	賞品であるウインチに
6	3	4	射撃大会のために新鮮なものを用意したヨハン・フェンヒテンに
24	-	-	衣服のための2つの赤と白の布に
4	-	-	笛吹きに
1	6	8	4人の呼び出しに
1	-	-	贈り物のワインに
151	-	-	賞品の先払いに
35	-	-	手紙への筆者と紙代に

* 「P」は「Pfund」を、「S」は「Schilling」を、「H」は「Heller」を意味する。

- ズ① スポーツの伝播・普及、創文企画、1993年、201-231頁；15・16世紀のドイツ都市アウグスブルクにおける射手祭、体育史研究、第8号（1991）、1-14頁。
2. アウグスブルクにおける公開射撃大会に関する資料に関しては、次の抽稿を参照されたい。スポーツ史資料：アウグスブルクの自由射的祭（1509年）への招待状、スポーツ史研究、5（1992）：43-53；アウグスブルクにおける1509年の「公開射撃大会」の開催費用、体育史研究、12（1995）：11-22；スポーツ史資料：アウグスブルクにおける「弩射撃大会」（1470年）の開催経費、スポーツ史研究、8（1995）：35-40；スポーツ史資料：P.H. マイルによるアウグスブルクにおける公開射撃大会の「記録」（1411-1575）、平成8年5月、成田十次郎先生退官記念会（編）成田十次郎先生退官記念論文集 体育・スポーツ史研究の展望——国際的成果と課題——、不昧堂出版、1996年、25-40頁。
3. 15世紀前半の射手状に関しては、次の抽稿を参照されたい。Ein Beitrag zur Geschichte des "Freischießens" in der ersten Hälfte des 15. Jahrhunderts. In: Sozial- und Zeitgeschichte des Sports. 10（1996）3, 34-49.
4. ただし、1442年にシュトラスブルクで開催された弩による射撃大会については、射手状の写しと参加者名簿および競技結果の記録が残されている（III Gup 140, 155, 16A in Archives Municipales in Strasbourg）。ところで、ニュルンベルクでは1433年8月25日に最初の射撃大会が開催された（Die Chroniken der deutschen Städte vom 14. bis ins 16. Jahrhundert. Bd.1. S.377; Reicke, E., Geschichte der Reichsstadt Nürnberg. Nürnberg 1896. S.679-680）。
5. Schnitzler, T., Zur Leistungsquantifizierung im spätmittelalterlichen Schützenwesen. In: Brennpunkte der Sportwissenschaft. 4.（1990）2. S.225.
6. B-Laden-Akten, SI L 180 Nr.11. in Staatsarchiv Nürnberg. (Register und Ordnung vff

- dem Schiessen hie zu Nuremberg gehalten Anno MCCCC=LVIJJ)
7. 『記録』では射手状について、次のように書かれている。「帝国のすべての支配者とドイツ国の有名な都市に当てて出された複写の書状は全部で380通であり、書状1通につき8デナリが書記に与えられた。書状に関する合計は101プフントである。この書状のために使用されたのは、大きなヴェネエッシュ紙で16帖である。その費用は39プフントであった」(3^r)。
 8. 『ドイツ都市年代記』では、アウグスブルクへの射手状が翻刻されている (Die Chroniken der deutschen Städte vom 14. bis ins 16. Jahrhundert. Bd.10. S.230-233)。
 9. 残念ながら、この円の大きさは『記録』には記載されていない。
 10. 『記録』には、「商品のために射撃をした射手は、全部で321人である」と記載されている (Ibid., fol. 9^r)。しかし、表Iに見られるように、『記録』に記載されている参加者の合計は、貴族の9人をも含めて319人である。この相違が生じた理由は不明である。
 11. ニュルンベルク市参事会は1434年に城壁西側のペグニッツ川添いにある「ハーレルヴィーゼ」と呼ばれる草地を購入し、ここを「すべての住民のための娯楽の場所」にしていた。Die Chroniken der deutschen Städte vom 14. bis ins 16. Jahrhundert. Bd.1. S.393. Anm.3.
 12. 『記録』の別の箇所では、「非常に多数の射手が到来することが予想されたので、標的場〔競技場〕を3カ所設置させた」(3^v)と述べられている。参加射手たちを3つのグループに分けたのか、3つの競技場を設置したのか、『記録』からは不明である。
 13. 返還金の合計は「66.4プフント」となり、この金額は「壺の中に残っていた50グルデン」を超える。いずれにしても、この返還金に関するテキストの解釈については今後の課題としたい。なお、グルデンとデナリの関係については、注15を参照されたい。
 14. アウグスブルクで1509年に開催された公開射撃大会では、命中数が同数の射手たちは「決定戦 (stechen)」に参加した。抽稿、スポーツ史資料：アウグスブルクの自由射的祭 (1509年) への招待状、スポーツ史研究、5 (1992)、47頁。
 15. 『ドイツ都市年代記』によると、支出総額は「656プフント・5シリング・3ヘラー」であり、これに対する参加費の収入は「326グルデン」であった (Die Chroniken der deutschen Städte vom 14. bis ins 16. Jahrhundert. Bd.1. S.393. Anm.3)。ところで、表IIIから当時のニュルンベルクの貨幣の価値関係が明らかになる。つまり、「1プフント」が「120デナリ」、「1シリング」が「6デナリ」、「1プフント」が「20シリング」、そして「1デナリ」が「2ヘラー」に相当した。また、「プフント」は計算上の単位であり、ほぼ「1グルデン」に相当した (Verdenhalven, F., Alte Maße, Münzen und Gewichte aus dem deutschen Sprachgebiet. Neustadt an der Aisch 1968, S.40)。
 16. 「Caspar Deschningen von lanndbhut」という人物は、ランツフトからの参加者名簿には記載されていない。また、全参加者の中にも、この名前は見当たらない。
 17. 「Heinrich Snitzer von Regensburg」という人物は、レーゲンスブルクからの参加者名簿には記載されていない。同名の人物がベルンとラーフェンスブルクから参加しているが、ベルンから参加した人物は9射命中の中に記載されているので、7射命中のシュニッツアーはラーフェンスブルクから参加した射手と思われる。